

1989年8月10日

## 米国の鳥類研究者就職事情

樋口広芳

米国は鳥類学の先進国として知られている。大学や政府、民間の研究機関にたくさんの鳥類学者がおり、さまざまな分野で活発に研究が行なわれている。ということは、裏返していえば、米国ではそれだけプロの研究者になる道が開けている、ということである。しかし、だからといって、プロの研究者になるのが非常に楽ということではない。というより、実際には非常に困難であり、おそらくその困難さは、日本の場合より大きいだろう。

どういふことか。プロの研究者になる候補者が非常に多く、競争率が大変なものなのである。米国では、鳥類学の研究と教育は大学

の中にしっかりと定着しているので、大学院で鳥を対象にして研究する人の数は、日本とは比べものにならないくらい多い。そうした人たちが、ときおりある募集に文字どおり殺到するのであるから大変なわけである。また、米国の場合でも、大学などでの募集は、「鳥類研究者」を対象にしてくることはあまりなく、生態学とか行動学といった分野でくっってくる。したがって、このような場合には、関連のより多くの人と競合することになる。

しかし、鳥の研究者が応募できる募集の数は、ともかく日本よりは多いし、募集は公募であり、公募はたぶん、日本より公明正大に行なわれている。公募が公明正大に行なわれている例をひとつあげておこう。私が所属していたミシガン大学(The University of Michigan)のDepartment of Biologyでは、選考の過程で候補者は最終的に2、3人にしぼられる。この段階で学生を含めた学内の公開セミナーが開かれ、ベスト2だかベスト3だかの候補者はそこで、これまでの研究の概要とか今後の抱負などについて講義する。そして、それを聞いた学生や教官などが、講義内容や、将来性、人間的な魅力などを評価するのである。もちろん、そこでの評価が唯一の評価ではないが、こうした方法は、人事が教授会のごく一部で極秘のうちに行なわれる日本の大学の場合とはまったく違っている。ちなみに、ミシガン大学は、米国の中でも代表的な州立の名門校である。

プロの研究者をめざす若い人は、アメリカ鳥学会(American Ornithologists' Union)の年次大会で発表することを非常に重視している。そこですぐれた発表をし、自分をいい意味でうまく売り込むことができれば、職を得ることに大きくプラスになるだろうと考えているようだ。公募がいくら公明正大に行なわれるとはいっても、たくさんの研究者が集まる中で自分を印象づけておくことは、たいせつなことなのである。若手が鳥学会の大会を重視するというこのことも、大会にプロの研究者が多数参加して積極的にすぐれた研究成果を発表することと合わせて、日本の鳥学界をめぐる状況とは大きく異なっている。



ミシガン大学動物学博物館。米国でプロの鳥類学者になるひとつのよい道は、大学などの博物館に職を得ることだ。この国では日本と違って、有名大学には多くの場合、自然史関係の研究博物館がある。



## 九州から北海道へ

川路 則友

鳥学ニュース 621に「歯学部助手稼業」として紹介されたのが3年前。現在は農水省森林総合研究所(旧林業試験場)北海道支所鳥獣研究室に所属。大手を振って鳥を追っかけることができるようになりました。職場は、基本的に林業に関わる鳥獣の試験研究を行うところで、これまで森林加害鳥獣に対する被害防除に関する研究が主体だったのですが、近年の自然保護ブームの影響を受け、国有林の公益的機能を重視する傾向も入ってきています。

「比較的」長い大学院生活を過ごした後、ご他聞にもれず、OD生活に突入。一時は近隣の短大非常勤講師の口を分けていただいて細々と食いつないでいましたが、人づてで某大学歯学部口腔解剖学教室に助手として就職。ようやく世間並の生活ができるようになりました。医歯系学部基礎講座の助手は、理農系学部出身(医歯学部卒と区別して傍系と呼ばれます)でも十分適応していく人々が多数見られます。しかし私自身は、何事も人間中心という考え方や学生実習(もちろん人体解剖実習)についていけず、それが鳥への執着をさらにつのらせる結果となり、転職の機会を常に狙っているという落ちこぼれ助手でした。幸い、現在の職場に移れ、さらに鳥類観察者にとっては憧れの地である北海道で「鳥の研究」ができるようになりました。しかし、一時的にせよ解剖学をかじったことは決して無駄ではなく、かなり形態学的発想を身につけることができたことは事実です。今は、赴任したばかりで北海道の植生や昆虫・鳥獣相など、いろんなことに目移りがしています。北海道の林業は天然林施業が広く行われてきており、生息鳥類への影響等も含めて、十分時間をかけて天然林内鳥類群集構造を見ていこうと思っています。さらに、九州ではめったにお目にかかれなかった鳥たちの繁殖生態が観察できるのも楽しみです。

## 就職のご報告

江崎 保男

この4月から兵庫県教育委員会の自然系博物館設立準備室に職を得ました。博物館(兵庫県立)は3年後に兵庫県三田市に開館の予定ですが、現在のところ準備室は神戸市内の兵庫県庁舎のすぐそばに置かれています。設立準備室ですので、私共職員の仕事は博物館設立のためのあらゆる仕事(かなりの部分が事務)であり、大学にいた時のようにフィールドワークと論文書きに専念するわけにはなくなりました。「魅力ある博物館をつくるにはどうしたらよいか」をめぐる準備室の仲間と頭をひねり、論をかわし、そしてほんの少し苦悩する日々を過ごしています。

私の場合、京大の大学院で正規の年数(5年)を終えた後、いわゆるオーバードクター生活を丸8年間経験しました。最初のうちは、少しがまんすれば職があるだろうとタカをくくっていたのが、もう1年、もう1年と延び、もうチャンスはないかもしれないと思い始めた頃に職の話が舞いこんだところでした。ある程度の研究業績が前提とはいえ、「就職は運だ」とつくづく感じます(ある面でのまめさが重要だという可能性もありますが)。とはいえ、研究機関に職を得るための正攻法はやはり、一所懸命勉強し、深く考え、良い論文を書くことではないでしょうか。

私の当面の目標はもちろん「魅力ある博物館の建設」です。しかし数十年にわたって手がけてきた「動物の社会」の研究を、たとえ忙しい中であっても、継続・発展させていきたいものだと考えています。更に、「社会」を扱った手法で「動物群集」の問題へ一歩踏みこめぬものか、そんな事も考えています。



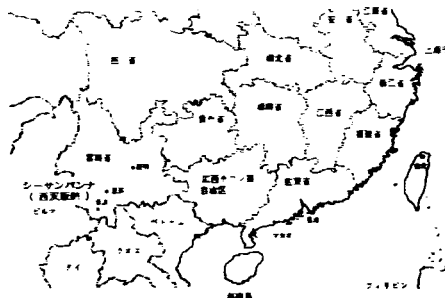
着地するダイサギ (撮影: 鈴木達雄)

## 中国南部および上海の鳥相近況

内田康夫・川内 博・熊谷 章

本年のゴールデンウィークに、旅行社企画の探鳥ツアーで、中国雲南省の昆明および最南端のタイ族自治州のシーサンパンナを、総勢18名で訪れた。その際観察した鳥を、途中で立寄った上海での記録も含め一覧表にした。

種名および配列は「世界鳥類和名辞典(1986)」におおむね従った。表中の記号は○：  
 確実 C：声で確認 △：不確実を意味する。



上海・昆明・シーサンパンナでの観察記録 (1989年4月29日~5月6日)

場所 (月/日)	上海			昆明			思茅~景洪			場所 (月/日)	上海			昆明			思茅~景洪			
	4	5	5	4	5	5	5	5	5		4	5	5	4	5	5	5	5	5	
	29	6	29	29	1	5	1	4	3		29	6	29	29	1	5	1	4	3	
種名	上海動物園	龍柏飯店	昆明空港	西山森林公園	市内農耕地	乃古村	昆明動物園	思茅空市	昆公路	景洪市	景真八角亭	景真八角亭	景真八角亭	景真八角亭	景真八角亭	景真八角亭	景真八角亭	景真八角亭	景真八角亭	
1. カイツブリ																				
2. ハイロベリカン	○																			
3. コサギ								○												○
4. アカガシラサギ	○																			○
5. ゴイサギ	C																			
6. ミサゴ	○																			
7. ノリリ																				○
8. チョウゲンボウ					○															
9. ヒメツバメチドリ																				○
10. インドサカゲリ																				○
11. アオアシシギ							○													
12. クサシギ							○													
13. イソシギ							○													
14. キジバト									○											○
15. ベニバト										○										
16. カノコバト	○	○							○											
17. カッコウ				C	C				C											
18. オオコノハズク										C										
19. オビロヨタカ									○											
20. ヒマラヤツバメ																				○
21. ヤシアマツバメ										○										
22. ヨロアマツバメ	○																			
23. ヒメアマツバメ				○	○			○	○	○										
24. ヒメヤマセミ																				○
25. カワセミ	○	○																		○
26. アオシウビン													○							○
27. ヤマシウビン													○							○
28. ヤツガシラ												○								
29. アオトコシキドリ																				○
30. セグロコゲラ																				○
31. アカゲラ																				○
32. タイワンヒバリ												○								
33. ヒメシウウドウ																				○
34. ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35. コシアカツバメ		○																		○
36. ハクセキレイ													○							○
37. モモシロウクイ																				
38. サンショウクイ	○																			
39. オガベウクイ																				
40. エボシヒヨドリ																				○
41. コウラウン																				○
42. ノドジロヒヨドリ													○	○						
43. シロガシラ	○	○																		
44. コシジロヒヨドリ																				○
45. アカモズ																				○
46. ハイガシラモズ																				○
47. タカサゴモズ																				○
48. ノゴマ																				○
49. シキチウ																				○
50. ノビタキ																				○

場所 (月/日)	上海					昆明					思茅～景洪					場所 (月/日)	上海					昆明					思茅～景洪				
	4	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		4	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	29	6	29	1	5	1	4	1	3	1	1	4	1	3	1		29	6	29	1	5	1	4	1	3	1	1	4	1	3	1
種 明	上海動物園	龍柏飯店	昆明空港	西山森林公園	市内農耕地	乃古林	石砬	昆明動物園	思茅空	思茅市	景洪市	景真八角亭	メコン川	種 明	上海動物園	龍柏飯店	昆明空港	西山森林公園	市内農耕地	乃古林	石砬	昆明動物園	思茅空	思茅市	景洪市	景真八角亭	メコン川				
51. クロノビタキ														81. メジロ																	
52. イソヒヨドリ														82. レンジャクノジロ																	
53. クロウタドリ														83. ヒゲホオジロ																	
54. カオダロガビチュウ														84. ホオアカ																	
55. チメドリ														85. アオジ																	
56. メジロチメドリ														86. スグロカラヒワ																	
57. ダルマエナガ														87. アカマシコ																	
58. ウグイス														88. コイカル																	
59. オオヨシキリ														89. シマキンバラ																	
60. ムジセッカ														90. ニュウナイスズメ																	
61. キヤムシクイ														91. スズメ																	
62. カラフトムシクイ														92. キムネコウヨウ																	
63. エゾムシクイ														93. オオハッカ																	
64. センダイムシクイ														94. ハッカチュウ																	
65. ハイガシラモリムシクイ														95. オウチュウ																	
66. セッカ														96. ハイロオウチュウ																	
67. マミハウチワドリ														97. ヒメオウチュウ																	
68. ハイムチワドリ														98. カンムリオウチュウ																	
69. ヤマハウチワドリ														99. オナガ																	
70. オナガサイウチュウ														100. カササギ																	
71. オニセッカ														101. コクマルガラス																	
72. オジロビタキ														102. ハシブガラス																	
73. ムネアカヒタキ														・ダイサギ																	
74. エゾビタキ														・トビ																	
75. コサメビタキ														・タカサゴダカ																	
76. カワリヤノウチュウ														・キンバトsp.																	
77. ズアカエナガ														・ブッポウソウsp.																	
78. シジュウカラ														・アオハウチワドリ																	
79. キバラシジュウカラ														・ゴジュウカラsp.																	
80. キゴシタイウチュウ														・サンジャク																	



モンハンの部落 (高床式の民家)



ハイロオウチュウ (昆明動物園内で)

## Movement

### スウェーデンでキツツキ・シンポジウム開催

石 田 健

去る3月14～16日に、スウェーデンのウプサラ市で、スウェーデン農学大学などの主催によるキツツキの個体群の保護と管理に関するシンポジウムが開催されました。アジアからは私一人、アメリカからキツツキ研究の権威・アメリカ自然史博物館のショート教授ら、それにヨーロッパの研究者など約60人が参加しました。18の講演と3つのポスター発表があり、私は、日本のキツツキ類の分布と現状について講演し、キツツキ3種の採食行動と植生の空間構造の関係についてポスター発表してきました。多数のクマゲラに足環をつけた個体群動態の研究、ラジオ・テレメトリーを用いてオオアカゲラの活動密度を評価した研究など、興味深い成果が発表されました。最終日には近郊の自然林へエキスカッションにでかけ、全員が当地では稀少になっているオオアカゲラのドラミングを堪能するなど、大変に実り多い催しでした。シンポジウム前後の観察旅行の世話をし、旅費の一部を援助していただくなど、私は、主催者に大変お世話になってきました。本シンポジウムの要旨集(英文)が、この秋に安価で発行されます。かなり余分に送ってもらうことになっており、興味のある方には実費でお分けしますので、石田まで申し出てください。〈連絡先〉 秩父市日野田町1-1-49 東大農学部秩父演習林

## Information

### 続・地方鳥類誌作成にご協力下さい!!

本誌613(1984年3月)に引き続き、その後に発行された都道府県別の鳥類誌をまとめます。今のところ、下記の出版物を把握していますが、他にありましたらお知らせ下さい。【北海道地方】北海道探鳥ガイド(松田忠徳編)北ぐにの鳥(斉藤春雄)きたの鳥たち(野生生物情報センター編)。【東北地方】秋田の野鳥百科(小笠原暁)岩手の鳥類<岩手の生物>。【関東地方】茨城の野鳥(望月和男)埼玉の鳥とけものたち(県環境部自然保護編)日本探鳥地図・首都圏版(朝日新聞社編)神奈川の鳥1977-86(日本野鳥の会神奈川支部編)。【中部地方】長野県野鳥ガイド(日本野鳥の会長野県内支部編)。【近畿地方】大阪府鳥類目録(日本野鳥の

会大阪支部)兵庫の野鳥(神戸新聞出版センター編)。【中国地方】岡山の野鳥(日本野鳥の会岡山県支部)。【四国地方】徳島県野鳥図鑑(日本野鳥の会徳島県支部)あなたの出会った鳥、出会う鳥—愛媛の野鳥(日本野鳥の会愛媛県支部)。【九州地方】20周年記念誌(日本野鳥の会宮崎県支部)屋久島並周辺海域の鳥類、同補遺(中川暁之介)沖縄県の鳥類<沖縄の生物>沖縄県鳥類生息調査報告書(沖縄鳥類保護協会)沖縄の野鳥観察(与那城義春)沖縄県の野鳥(沖縄野鳥研究会)。

<連絡先>(〒112)文京区大塚5-40-10

日本大学豊山高校 川内 博 気付

鳥学ニュース編集部

## 公募

### 国際鳥学会議への参加助成

来年ニュージーランドで開催される国際鳥学会議で研究発表される会員(満40才以下)に、伊藤基金より25万円の助成金が用意されています。詳しくは前号(613)p.8か、

会誌37巻4号(近日発行)をご参照下さい。助成の申請締切り日は12月15日ですが、鳥学会議への参加費払い込みは9月1日ですのでご注意ください。

《 予 告 》 …… 詳細・決定事項は 次号に掲載

ゲラシモフ博士を迎えての講演会と

第 6 回 ガンシンポジウムのお知らせ

ソ連科学アカデミーのゲラシモフ博士が雁を保護する会の招待で来日し、日本鳥学会主催の講演会（東京）で講演を行います。また新潟県豊栄市で行われる『第 6 回 ガンのシンポジウム』（雁を保護する会・福島潟野鳥の会・野生生物情報センター主催）などでの講演も予定されています。

ゲラシモフ博士はカムチャツカ州の鳥類学者で、最近雁を保護する会と共同でガン類（ヒシクイ *A. f. serratirostris* とオオヒシクイ *A. f. middendorfi*）の首環標識に基づく生態調査を行っており、その過程でカムチャツカと日本の個体群の間には両亜種とも、密接な関係があること等、新しい知見を明らかにしてきました。今回の講演でもこれらの成果に関連した講演をして頂きます。講演には通訳がつきます。会員以外の方の聴講も歓迎します。

演 題：カムチャツカ半島に於けるガン類の分布とその生態（仮題）

講 師：ニコライ N. ゲラシモフ博士（Kamchatska Department of Nature Management Far-Eastern Branch of USSR Academy of Sciences）

【東京】

主 催：日本鳥学会

と き：12月2日（土） 14時から

と ころ：国立科学博物館分館・資料館会議室（東京都新宿区百人町3-23-1）

交 通：JR中央線 大久保駅・JR山手線 新大久保駅下車 徒歩約8分。

【豊栄市（新潟）】

主 催：雁を保護する会・福島潟野鳥の会・野生生物情報センター

と き：11月25日（土） 14時から

と ころ：豊栄市立博物館（豊栄市嘉山大字下口3452）

交 通：JR新潟駅でJR白新（ハクシン）線乗り換え、豊栄駅下車（新潟駅より5つ目）、徒歩15分。

【仙台市】

主 催：雁を保護する会

と き：11月26日（日） 19時から

と ころ：東北大学文学部文教大講堂（仙台市青葉区川内）、文学部棟の南隣の建物

交 通：JR仙台駅より市営バスで15分。

講演等の内容についての問い合わせは、呉地（電話 0228-32-2004）まで。また会場については、東京；日本鳥学会，豊栄；豊栄博物館・宮崎芳春（025-386-1081），仙台；東北大・鈴木道男（022-222-1800 内線 2587）まで。 （呉地正行）

第2回津戸基金による鳥学シンポジウム——セキレイ3種の社会構造の比較

会 場：大阪市立大学理学部

日 時：1989年12月9・10日

講演者：未定

シンポジウムの意図：1983年の鳥学会大会におけるシンポジウム「ハクセキレイとセグロセキレイの分布と生態」では、種の起源をめぐって活発な議論が展開された。今回は、ハクセキレイを含めた3種の、周年の社会構造に主眼を置き、種間および地理的に比較することによって、渡り性、形態（性的二型）および子育てとの関係に、新しい視点を見出すべく企画してみた。（大迫義人）

## 托卵鳥と宿主の相互進化

東邦大学で開かれる今年度の鳥学会大会で、上記のテーマでシンポジウムが行われることになりました。このシンポジウムは、昨年10月に行われた第1回津戸基金シンポジウム「カッコウと宿主の相互進化」をもとにして企画されたものです。

前回のシンポジウムでは、托卵鳥の研究に実際にたずさわっている少人数の人が集まり、それまでの研究成果にもとづいて相互進化のあり方について議論しました。今回は、前回の成果をふまえた上で、多数の参加者が集まる鳥学会大会で、視野を托卵鳥一般に広げて行うものです。托卵鳥と宿主に働く自然選択は、多くの場合直接的であり、かつ明確であるため、両者の関係は生物進化の好適な研究材料であるという認識が最近高まっています。そのため、この問題は、托卵という特異な繁殖様式に興味を持つ鳥類学者だけでなく、行動生態学者や一般の進化生物学者にも広く注目されはじめています。

托卵する側とされる側の生態、行動、形態にみられる諸特性が、互いにどう関係しつつ進化・発達したのかを明らかにしようというのが、今回のシンポジウムのねらいです。シンポジウムでは、各地域での托卵に関する情報を多くの方から提供していただきながら、托卵鳥と宿主の関係を通して進化が起こる具体的なメカニズムに関する突っ込んだ論議をしたいと思います。また、これを機会に、4種ものホトトギス科托卵鳥が繁殖する日本で、托卵に関する研究が今後各地で盛んになることを期待しています。

シンポジウム企画責任者 樋口広芳・中村浩志

### ● 大会への参加申込みは8月20日までに

- ① 大会は9月9日(土)～10日(日) 東邦大学理学部(千葉県船橋市)です。
- ② 研究発表・大会出席とも申込みは**8月20日**までをお願いします。
- ③ 大会参加費：2,000円 懇親会費：3,000円(8月20日までに)
- ④ 住所・氏名・電話番号を明記の上、郵便振替で(裏面に住所・氏名・電話番号を忘れずに) 振替口座 1989年鳥学会大会 東京6-413462
- ⑤ 詳細については前号(No.31) p.7をご参照下さい。
- ⑥ 本年末にポスター発表兼忘年会を開く予定です。

大会へ参加されない会員は、委任状を学会事務局へお送り下さい。

### 編集後記

特集・飛び立つは、日本の鳥学の未来を背負う新人の声を掲載しましたが、いかがだったでしょうか。このような企画が近い将来にまた、そして何回も行なえることを期待しています。ところで今後の特集の予定としては、続・地方鳥類誌、標識調査の現状などを考えています。また種ごと、グループごとなども企画したいと思っています。ご期待下さい。(川内)

## 鳥学ニュース No. 32

1989年8月10日 発行 (会員配布)

発行所 日本鳥学会 (〒160) 東京都新宿区百人町3-23-1  
国立科学博物館分館内 (振替) 東京1-6599  
(電話) 03(364)2311

発行人 黒田長久 編集者 川内博・長谷川博 印刷所 文英社印刷